



7. 認知症の進行に沿った本人の思いと家族の対応ポイント

進行度 (状態)		本人のこと		家族の気持ち	対応のポイント
		本人の様子	本人の思い		
MC I 軽度認知障害	認知症ではないものの、年齢相応より認知機能が低下した状態	軽度 ▶外出するのが面倒になった ▶外出時の服装に気をつかわなくなった ▶同じことを何回も話すことが増えた ▶小銭での計算が面倒でお札で支払うようになった ▶手の込んだ料理を作らなくなった ▶料理の味付けが変わった ▶車をこすることが増えた	*これから自分がどうなるのか不安 *周りから「もっとしっかりして」と言われるとツライ	否定 *年相応のもの忘れてしょ *まさか、認知症になんて、かかっているわけない	気づき・相談 *短い言葉でゆっくりと話しましょう。 *必要なことなどをメモに書いて、目立つ所に貼っておきましょう。 *時間やカレンダーなどを近くにおいて、日時の見当がつく工夫をしましょう。 *同じことを何度聞かれても優しく対応しましょう。 *家族や周りの人の「気づき」が大事です。 *何か様子がおかしいと思ったら、かかりつけ医や地域包括支援センターなどに相談しましょう。 *認知症に関する正しい知識や理解を深めておきましょう。 *本人の不安に共感しながら、さりげなく手助けしましょう。 *認知症予防に積極的に取り組みましょう。
	日常生活は自立している	▶大事な約束を忘れ、困ることがある ▶計算の間違いが多くなった ▶趣味や楽しみに興味がなくなった ▶冷蔵庫の中に同じものがいくつもある ▶その場をとりつくろ言動がある ▶財布などの物が見当たらないと、他人(身近な人)のせいにする	*頭の中に霧がかかったように感じる *不安や焦りを感じる *できない事が増えるが、できることもたくさんあるため葛藤する *一番困るのは、新しい場所に1人で行けないことと、時間の感覚が曖昧になること	混乱 *認知症じゃないでしょ *言えばできるはずなのに、怠けているのでは？ *わざと私を困らせているとしか思えない 『腹がたって当たり前』	介護保険申請等 *大事なことや出来事をメモに書き留めることを勧めましょう。 *話しはゆっくり短い言葉で1つずつ伝えましょう。 *できないことは無理にさせずに、できることを活かしましょう。 *近い親族家族や本人の親しい人達には、病気のことを伝えておきましょう。 *同じ介護を体験する家族との交流を持ちましょう。 *本人への今後の生活についての意向を聞いておきましょう。 *相談窓口で相談したり、必要時介護保険の申請をしましょう。 *社会的役割や外出・交流の場を持ち、進行抑制を意識しましょう。 『一人で抱え込まない』
初期認知症	誰かの見守りがあれば日常生活は自立している	中等度 ▶たった今しようとしたことや話したことを忘れる ▶料理をしなくなった ▶ささいな事で怒りっぽくなった ▶薬の管理ができない ▶徘徊(はいかい)をする	*不安や焦りが大きくなる *できることとできないことの差が大きくなり、困ったと感じることが多くなる *昔から続けていることは、無理なく取り組むことができるため混乱が生じる	拒絶 *自分だけがなぜ… *こんなに頑張っているのに 『頑張りすぎない』	身体的な支援・行動心理状態や *物が無くなった時は一緒に探し、普段からしまう場所を確認しておきましょう。 *衣類や持ち物に連絡先を記入しておきましょう。 *嫌がることやできないことを無理にさせないようにしましょう。 *できないことや間違いがあっても、責めたり否定したりしないようにしましょう。 *火の不始末や道に迷うなどの事故に備えて、安全対策を考えておきましょう。ご近所さんや民生委員さんなどに協力依頼を。
	日常生活に手助けや介護が必要	▶季節にあった服装が選べない ▶顔を洗わない・入浴を嫌がるなど、身だしなみを気にしない ▶はしの使い方がわからない ▶排泄を失敗する ▶知人のことがわからなくなる	*症状がかなり進んでも、人としての自尊心は最後まで持ち続けている。 *言葉で自分の状態を表現できなくても、顔や表情から「快・不快」をくみ取ってほしいと思っている。	割り切り *いつまで続くんだろう *介護を頑張っても、私の顔や名前も忘れてしまうのかしら	重度・終末期ケア *食事・排泄・清潔などの支援が必要になり、合併症が起きやすいことを理解しましょう。 *家族の顔がわからなくなっても、安心を与えられるように努めましょう。 *やさしく触れるなど、スキンシップを大切にしましょう。 *表情などのサインを大切にしましょう。 *どのような終末期を迎えるか、家族間でよく話し合っておきましょう。 *一人で介護を抱え込まないように、介護サービスや医療サービスを活用しましょう。 *事故を防止し、介護にも役立つような生活環境を整えましょう。 *認知症による症状が強い場合などは主治医と相談し、専門医療機関での対応も相談しましょう。 『介護者自身のことも大切に』
中期認知症	日常生活に手助けや介護が必要	▶季節にあった服装が選べない ▶顔を洗わない・入浴を嫌がるなど、身だしなみを気にしない ▶はしの使い方がわからない ▶排泄を失敗する ▶知人のことがわからなくなる	*症状がかなり進んでも、人としての自尊心は最後まで持ち続けている。 *言葉で自分の状態を表現できなくても、顔や表情から「快・不快」をくみ取ってほしいと思っている。	割り切り *いつまで続くんだろう *介護を頑張っても、私の顔や名前も忘れてしまうのかしら	重度・終末期ケア *食事・排泄・清潔などの支援が必要になり、合併症が起きやすいことを理解しましょう。 *家族の顔がわからなくなっても、安心を与えられるように努めましょう。 *やさしく触れるなど、スキンシップを大切にしましょう。 *表情などのサインを大切にしましょう。 *どのような終末期を迎えるか、家族間でよく話し合っておきましょう。 *一人で介護を抱え込まないように、介護サービスや医療サービスを活用しましょう。 *事故を防止し、介護にも役立つような生活環境を整えましょう。 *認知症による症状が強い場合などは主治医と相談し、専門医療機関での対応も相談しましょう。 『介護者自身のことも大切に』
後期認知症	常に介護が必要	▶身近な家族の顔がわからなくなる ▶自由に身体を動かさなくなる ▶食べ物の飲みこみに支障が出る	*症状がかなり進んでも、人としての自尊心は最後まで持ち続けている。 *言葉で自分の状態を表現できなくても、顔や表情から「快・不快」をくみ取ってほしいと思っている。	受容 *わからなくなっても大切な人であることにはかわりない 『一緒にいられる時間を大切に過ごす』	重度・終末期ケア *食事・排泄・清潔などの支援が必要になり、合併症が起きやすいことを理解しましょう。 *家族の顔がわからなくなっても、安心を与えられるように努めましょう。 *やさしく触れるなど、スキンシップを大切にしましょう。 *表情などのサインを大切にしましょう。 *どのような終末期を迎えるか、家族間でよく話し合っておきましょう。 *一人で介護を抱え込まないように、介護サービスや医療サービスを活用しましょう。 *事故を防止し、介護にも役立つような生活環境を整えましょう。 *認知症による症状が強い場合などは主治医と相談し、専門医療機関での対応も相談しましょう。 『介護者自身のことも大切に』